

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部2年 吉田 健太

大学の語学選択では中国語を選択し1年間中国語に触れた。今後は中華圏（中国本土・香港・台湾・シンガポール）の留学も視野に入れており、その前に留学先の気候や環境が自分に合うのかを試す意味で今回参加した。また生活に根差した中国語習得、特にリスニングの向上を目指して参加した。

このプログラムは午前と午後の2部に分かれている。9時半からは文法の授業が始まり、12時15分に終る。2時間ほどの休憩をはさんで、14時半から17時15分までリスニング・スピーキングの授業が行われる。授業はクラスによるが、レベル1では英語を主に使用し、中国語を学ぶ。レベル2以降では中国語を基本的に使用し、困った際に英語でアシストをしてくれる。毎日宿題や予習復習する必要がある、隔日でテストも実施される。午前と午後の授業には関連があるため、理解が深まる。学生は寮に宿泊する。今回は和声書院というところで、2人部屋であった。相部屋は事前のリクエストがあれば相手を選べるが、そうでない場合はランダムに振り分けられる。私の相部屋はロシアの学生であり、またほかの部屋でも同じ大学の学生が固まらないように振り分けられていた。ワンフロアには23部屋あり、キッチンもあった。基本的な調理器具はそろっている印象である。シャワートイレは共用であり、水詰まりなどもよく発生した。トイレは紙が常備されておらず、部屋からトイレットペーパーを持っていく必要がある。シャワーの際にはサンダルが重宝されるので、持っていくべし。

寮からヤスモト（教室）までは歩いて20分ほどである。バスが巡回しており、バスに乗れば15分ほどで到着する。中文大学は山地にあるため、歩いていく場合は注意が必要である。今回参加した学生は55名。20名が京都大学であり、ほかには九州大学・広島大学・同志社大学・南山大学・名古屋大学・上智大学・学芸大学などさまざまな日本の大学、アメリカ・ドイツ・ロシア・オランダなど各国の学生も参加していた。

一番近い繁華街までは電車で20分ほど、町の中心迄も40分ほどで行けるため交通の便はかなりよい。朝食に関してはスーパーでシリアルを買っている学生や駅前の肉まん屋を利用している学生がいた。また寮の地下にも食堂があり、ヤスモト（教室）の2階にもカフェがある。昼食は衆志堂と呼ばれる食堂が近くにあるため利用している学生が多かった。一食600～1000円ほどである。

危機意識も大切である。スリにあった学生がいたほか、福島放射線汚染水排出デモが重なり外務省経由で注意喚起が行われた。一方で、中国語をゆっくり話してくれたり、相席になった方が広東語を普通語に翻訳してくれたり、おススメの料理をくれたりと中国語を勉強しにきている学生に対して親切な方が多かった。

このプログラムで香港の言葉・文化・気候に大きく触れ、ますます中華圏が好きになった。今はHSK4級の獲得を目指して学習を継続している。

次年度以降の参加者には積極的な外出と、実際に街中で中国語を話して聞いてという経験を出来るだけ積むことをお勧めする。すべては理解できなくても、なんとなく聞こえてきたり、分かったりして大変楽しい。また現地の学生と仲良くなって一緒に出掛けてみるなど、アクティブに動いて欲しい。